

新たな都立公園の整備と管理のあり方について（諮問）



「新たな都立公園の整備と管理のあり方について」 諮問の趣旨

- 都は、10年先を見据えた都立公園における整備・管理運営の指針として「パークマネジメントマスタープラン（平成27年3月）」を策定し、様々な取組を進めているが、令和6年度の計画期間の終了にあわせて改定を予定している。
- 今般、公園を取り巻く社会状況は、新型コロナウイルス感染症との共存や多様性と包摂性に富む持続可能な社会等の構築が求められると共に、気候変動や社会経済活動に伴う自然環境の変化、災害の激甚化、少子・高齢化の進展、東京2020大会レガシーの継承、DXの推進など、これまでにない大きな変化が生じており、令和5年には都市公園制度及び都立公園開園150周年を迎える。
- そこで、これからの都立公園が目指すべき姿や果たすべき役割等を明らかにするとともに、新たな公園像の実現に向けた整備と管理のあり方について検討する必要がある。

1. 東京都の総合計画（「未来の東京」戦略）

2. 都立公園を取り巻く社会状況

3. 都政モニターアンケート

4. これまでの都立公園の取組と成果

5. 検討の視点（例）

1. 東京都の総合計画（「未来の東京」戦略）

明るい未来の東京を切り拓くための都政の新たな羅針盤となる「『未来の東京』戦略」を令和3年（2021年）3月に策定した。

【2040年代に目指す「未来の東京」の姿】



- 01 子供の笑顔と子供を産み育てたい人で溢れ、家族の絆と社会が支える東京
- 02 新たな教育モデルにより、すべての子供・若者が将来への希望を持って、自ら伸び、育つ東京
- 03 女性が自らの希望に応じた生き方を選択し、自分らしく輝いている東京
- 04 高齢者が人生100年時代に元気に活躍し、心豊かに暮らす東京
- 05 誰もが自分らしくポジティブに働き、活躍できる東京
- 06 様々な人が共に暮らし、多様性に富んだ東京
- 07 誰もが集い、支え合う居場所・コミュニティが地域の至る所に存在する東京
- 08 災害の脅威から都民を守る強靱で美しい東京
- 09 犯罪、事故、火災への対処、病気への備えなど、暮らしの安心が守られた東京
- 10 高度な都市機能と自然が調和し、人が集い、憩う東京
- 11 最高の交通ネットワークが構築された便利で快適な東京
- 12 デジタルの力で東京のポテンシャルを引き出し、都民が質の高い生活を送る「スマート東京」(東京版Society 5.0)
- 13 世界中からヒト・モノ・カネ・情報が集まる、世界一オープンな東京
- 14 次々と新しい産業が生まれる、世界一のスタートアップ都市・東京
- 15 世界一の高い生産性を実現した、世界経済を牽引する東京
- 16 水と緑を一層豊かにし、ゆとりと潤いのある東京
- 17 ゼロエミッション東京
- 18 文化やエンターテインメントで世界を惹きつける東京
- 19 スポーツが日常に溶け込んでいる、スポーツフィールド・東京
- 20 全国各地との連携を深め、真の共存共栄を実現した東京



1. 東京都の総合計画（「未来の東京」戦略）

【「未来の東京」の姿の実現に向け、2030年に向けて取り組むべき戦略】

戦略0 感染症に打ち克つ戦略

戦略1 子供の笑顔のための戦略

戦略2 子供の「伸びる・育つ」応援戦略

戦略3 女性の活躍推進戦略

戦略4 長寿（Chōju）社会実現戦略

戦略5 誰もが輝く働き方実現戦略

戦略6 ダイバーシティ・共生社会戦略

戦略7 「住まい」と「地域」を大切にする戦略

戦略8 安全・安心なまちづくり戦略

戦略9 都市の機能をさらに高める戦略

戦略10 スマート東京・TOKYO Data Highway戦略

戦略11 スタートアップ都市・東京戦略

戦略12 稼ぐ東京・イノベーション戦略

戦略13 水と緑溢れる東京戦略

戦略14 ゼロエミッション東京戦略

戦略15 文化・エンターテインメント都市戦略

戦略16 スポーツフィールド東京戦略

戦略17 多摩・島しょ振興戦略

戦略18 オールジャパン連携戦略

戦略19 オリンピック・パラリンピックレガシー戦略

戦略20 都政の構造改革戦略

2. 都立公園を取り巻く社会状況

国の施策の動向

○都市公園法改正（2017年6月施行）

新しいステージで重視すべき3つの観点

①ストック効果をより高める

今ある公園をどう活かすかという視点で、都市公園を活性化

②民間との連携を加速する

民間のビジネスチャンスの拡大と都市公園の魅力向上の両立

③都市公園を一層柔軟に使いこなす

画一的な整備・管理をやめ、柔軟な発想で公園の個性を引き出す

新しい制度

- ・公募設置管理制度（Park-PFI）の創設
- ・保育所等社会福祉施設の占用物件への追加（特区の全国措置化）
- ・公園の活性化に関する協議会の設置 等

○新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性（2020年8月）

【論点3】「オープンスペースの今後のあり方と新しい政策の方向性」

<新型コロナ危機を契機に生じた変化>

- 自宅で過ごす時間が増え、身近な自然資源として、運動不足の解消・ストレス緩和の効果が得られる場として、グリーンインフラとしての緑や、オープンスペースの重要性が再認識。
- 緑とオープンスペースは、テレワーカーの作業場所、フィットネスの場所等利用形態が多様化。災害等の非常時に対応するためのバッファー機能として、都市の冗長性を確保する観点からも役割が増大。
- オープンスペースを有効に活用するため、エリアマネジメントの中心的な存在として、信頼できる中間支援組織の存在、効果的に活用するための人材育成の必要性が高まっている。

<今後の方向性>

- **グリーンインフラとしての効果**を戦略的に高めていくことが必要。
- **ウォカブルな空間とオープンスペースを組み合わせ**てネットワークを形成することが重要。
- 街路空間、公園・緑地、水辺空間、都市農地、民間空地など、**まちに存在する様々な緑とオープンスペースについて**、テレワーク、テイクアウト販売への活用といった地域の多様なニーズに応じて**柔軟に活用**することが必要。
- 災害・感染症等のリスクに対応するためにも、**いざというときに利用できる緑とオープンスペースの整備**が重要。
- イベントだけでなく、比較的長期にわたる日常的な活用（例：オープンテラスの設置）など、**柔軟かつ多様なオープンスペースの活用の試行**、これを支える**人材育成、ノウハウの展開**等が必要。

出典：新型コロナ危機を契機とした
まちづくりの方向性（論点整理） 概要
（国土交通省 2020年）

2. 都立公園を取り巻く社会状況

国の施策の動向

○都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会提言（2022年10月）

◆都市公園新時代に向けた重点戦略～3つの戦略と7つの取組～

重点戦略【1】 新たな価値創出や社会課題解決に向けたまちづくりの **場** とする

公園が新たな価値創出や社会課題解決の場となるよう、NbS(自然を基盤とした解決策)の視点からグリーンインフラとしての保全・利活用に計画的に取り組むとともに、市民、事業者等による利活用の状況を管理運営や再整備にきめ細かく反映し、居心地が良く誰もが快適に過ごせる空間づくりを推進。

施策の方向性	①グリーンインフラとしての保全・利活用	②居心地が良く、誰もが安全・安心で、快適に過ごせる空間づくり
	○グリーンインフラを導入した緑の基本計画(公園の整備・管理方針を含む)の策定 ○緑の基本計画等に基づく自然環境の有する多機能性の戦略的な保全・利活用 ○緑の充実や再生可能エネルギーの活用等による公園のカーボンニュートラル化	○公園の利活用状況の点検と点検結果を踏まえた公園再生 ○公園利用者の安全・安心の確保(防災・減災、バリアフリー、老朽化対策、防犯、暑熱対策等) ○政策間連携による社会課題対応型の機能向上(健康、福祉、子育て、教育、地域経済等)

重点戦略【2】 しなやかに使いこなす **仕組み** をととのえる

公園は誰でも自由に使える空間という基本的な認識の下、多様化する利活用ニーズに応え、さらには公園が機動的なまちづくりの核となるよう、公園の特性等に応じた利用ルールの弾力化、新たな可能性を探る実験的な利活用の推進など、公園を使いこなす仕組みを整理。

施策の方向性	③利用ルールの弾力化	④社会実験の場としての利活用
	○画一的な利用ルールの見直しの促進(公園条例の方向性や選択肢の提示等) ○利用者等の合意形成による公園毎のローカルルールづくり(協議会の活性化)	○公園での社会実験の事例・成果の共有 ○多様な主体による幅広いテーマの社会実験を円滑に進めるための仕組みづくり(パークラボ)

重点戦略【3】 管理運営の **担い手** を広げ・つなぎ・育てる

公園管理者としての体制確保・技術継承、地域との連携等に留意しつつ、多様な主体の参画を促進するとともに、管理運営を安定的に行えるよう自主性・自律性の向上を図り、ステークホルダーとのパートナーシップにより公園の価値を共創。

施策の方向性	⑤担い手の拡大と共創	⑥自主性・自律性の向上
	○公園の特性等に応じた管理運営体制や役割分担の多様化 ○利活用をミッションとする体制構築(中間支援組織との連携等)	○担い手の財政的な自立性の確保(計画的な収益事業実施、広告設置等) ○民間の管理運営への参画を更に促進する仕組みづくり

⑦公園DXの推進

デジタル技術とデータの利活用により、新たな時代の都市公園の実現を促進。

施策の方向性
○公園に関わるデータのデジタル化、オープンデータ化
○データを活用したEBPM
○ODXによる新たなサービスを生み出す場としての活用
○デジタル技術、データを活用した、公園の利活用・管理運営の変革(リアルタイムデータを活用したサービス等)

出典：都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会提言（概要）
（国土交通省 2022年）

2. 都立公園を取り巻く社会状況

■ みどりの状況

■ 自然環境と生物多様性

■ 気象状況の変化

■ 風水害による影響

■ 地震による影響

■ 歴史文化・観光

■ 都民の人口構成

■ 健康維持と運動の習慣

■ コミュニティの醸成・居場所づくり

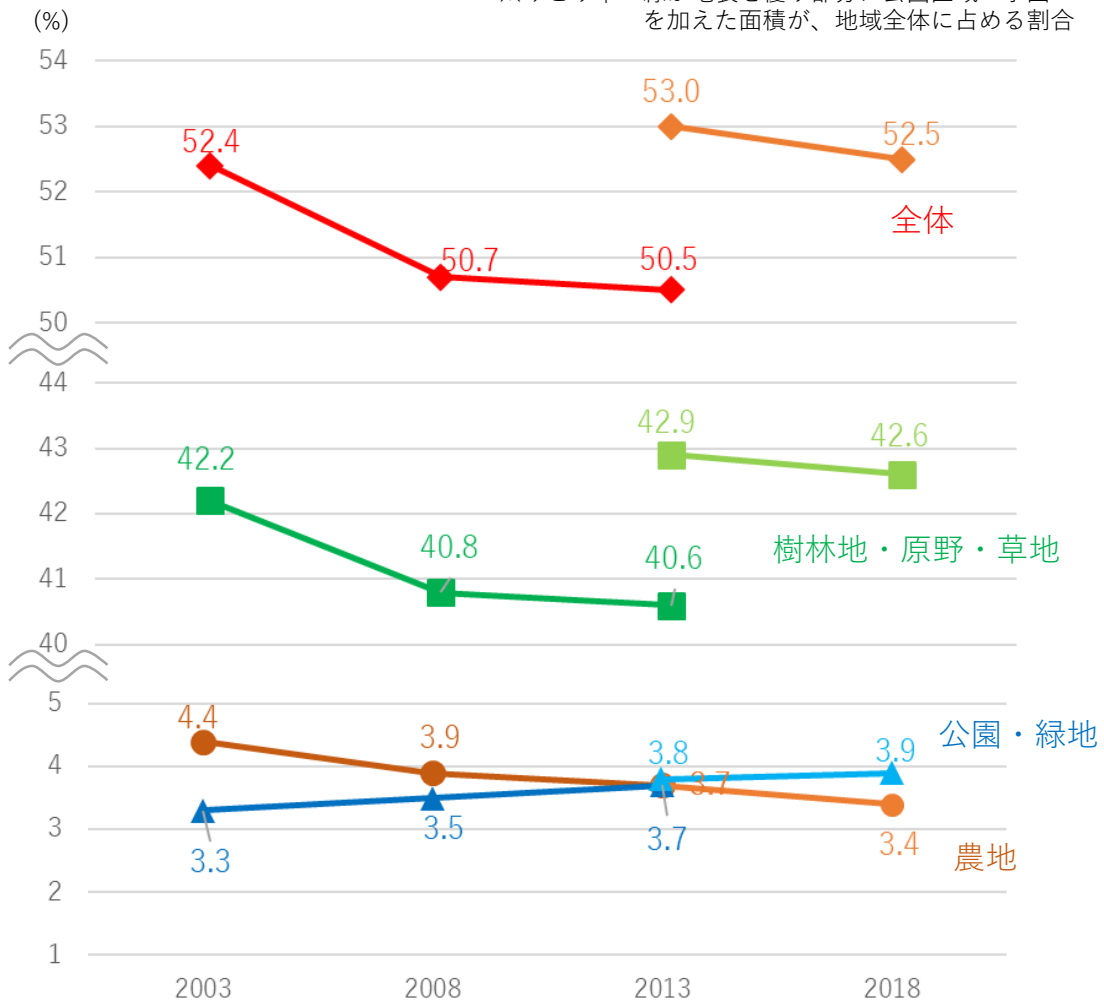
■ 「新しい日常」への対応

2. 都立公園を取り巻く社会状況

■ みどりの状況

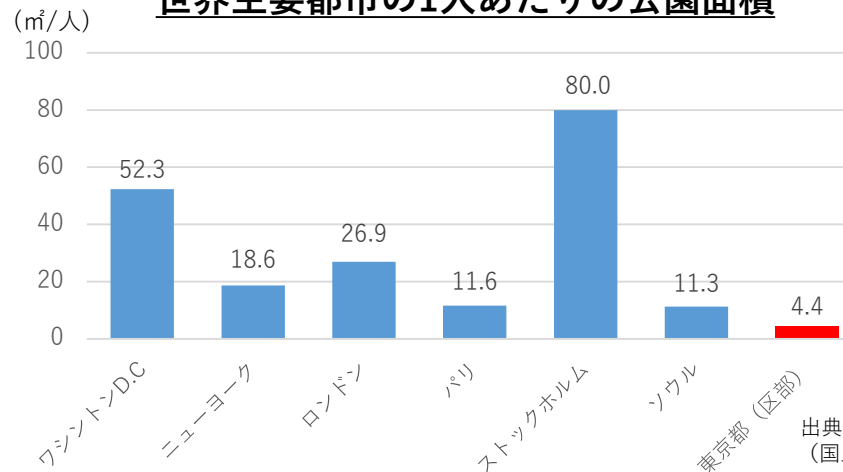
東京のみどり率※推移

※みどり率：緑が地表を覆う部分に公園区域・水面を加えた面積が、地域全体に占める割合



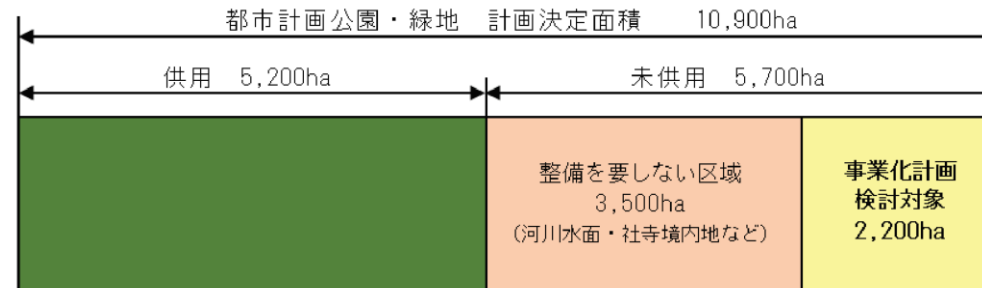
出典：みどり率調査の結果（東京都 2018年）を基に作成

世界主要都市の1人あたりの公園面積



出典：都市公園等整備の現況等（国土交通省 2020年）を基に作成

都市計画公園・緑地の供用面積・未供用面積



出典：都市計画公園・緑地の整備方針（東京都 2020年）

現状と課題

- 東京のみどりは減少傾向にあり、樹林地や農地の減少が顕著
- 公園は増えているが、世界の大都市に比べて少ない状況

今後の展開（例）

- あらゆる機会を通じて緑の量的な底上げと質の向上が必要
- 公園の計画的な整備推進が必要

2. 都立公園を取り巻く社会状況

自然環境と生物多様性

東京の地形区分と自然環境



野山北・六道山公園



小宮公園

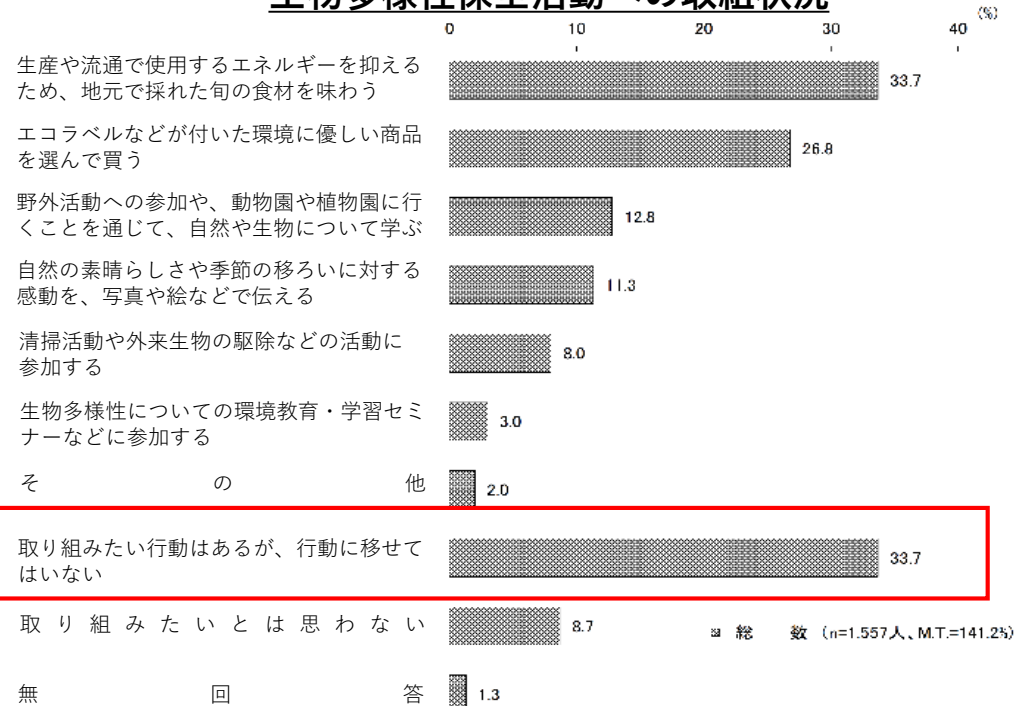


井の頭恩賜公園



葛西臨海公園

生物多様性保全活動への取組状況



出典：生物多様性に関する世論調査（内閣府 2022年）を基に作成

現状と課題

- 山地から低地、島嶼まで多様な生態系が存在し、様々な課題に直面
- 生物多様性に対する理解や認識は不十分

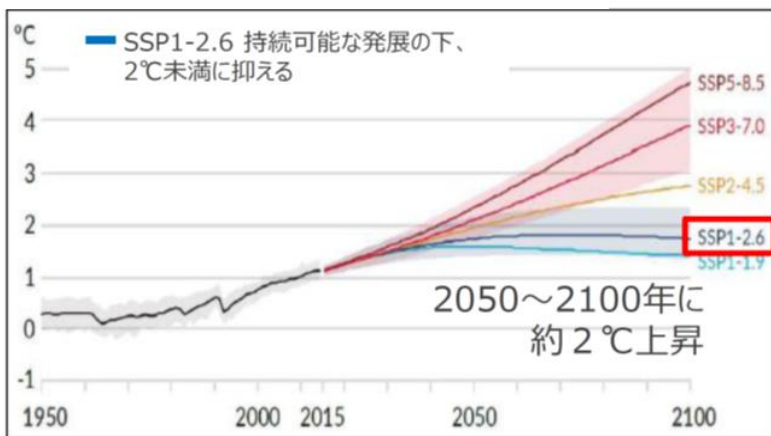
今後の展開（例）

- 生物多様性の保全と持続可能な利用の推進が必要
- 生物多様性の価値の普及と行動変容が必要

2. 都立公園を取り巻く社会状況

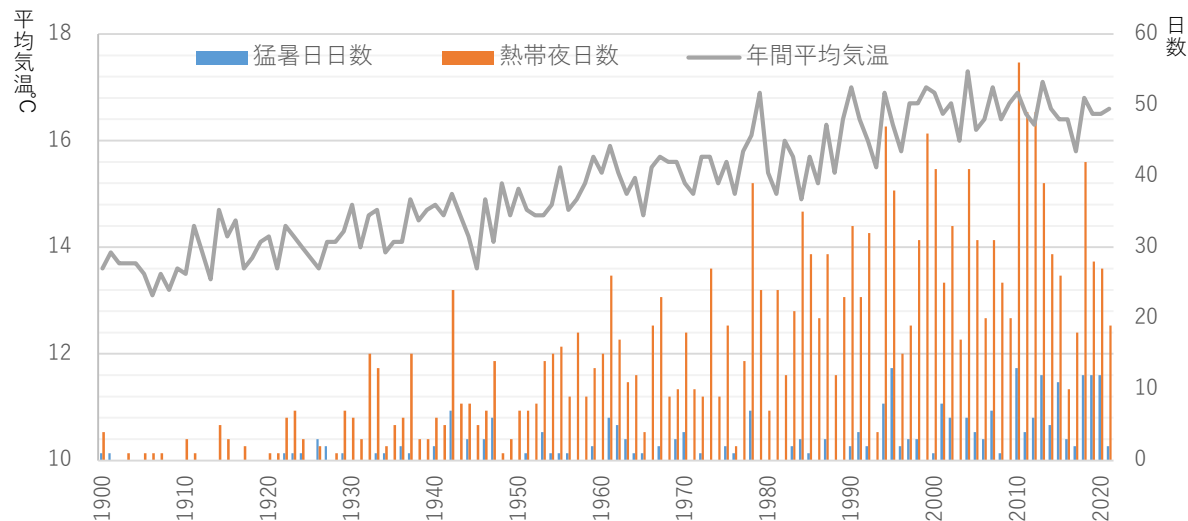
■ 気象状況の変化

将来の世界平均気温上昇予測



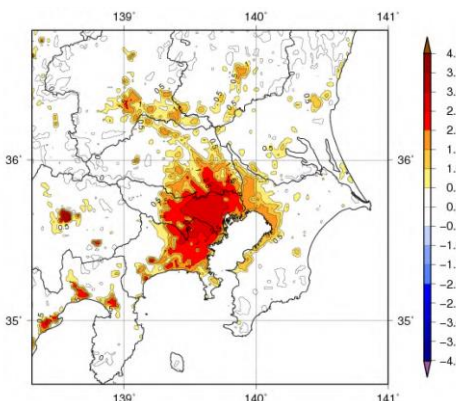
出典：IPCC「IPCC第6次評価報告書第1作業部会報告書」を基に作成
「未来の東京」の実現に向けた重点政策方針2022（東京都 2022年）

東京の年間平均気温と猛暑日・熱帯夜日数



出典：東京の平均気温（気象庁 2021年）
大都市における熱帯夜日数の長期変化傾向（気象庁 2021年）
大都市における猛暑日日数の長期変化傾向（気象庁 2021年）

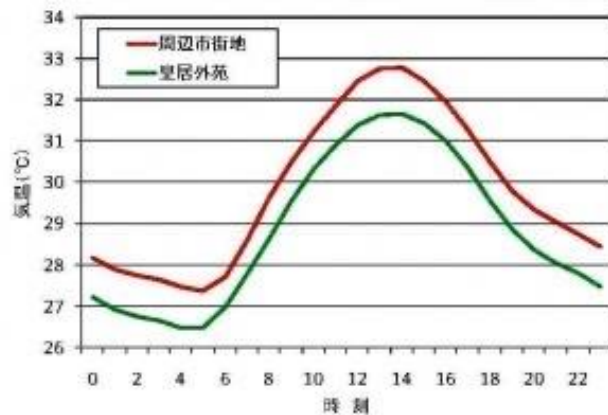
関東地方におけるヒートアイランド現象



2017年8月の5時（夜間）の都市化の影響による平均気温の変化（℃）の分布

出典：ヒートアイランド監視報告（気象庁 2017年）

公園緑地がもつ冷涼機能



出典：皇居・皇居外苑のクールアイランド効果の観測結果について（お知らせ）（環境省 2008年）

現状と課題

- 温室効果ガスの増加に伴い、世界の平均気温は上昇と予測
- 都市化によるヒートアイランド現象が進行

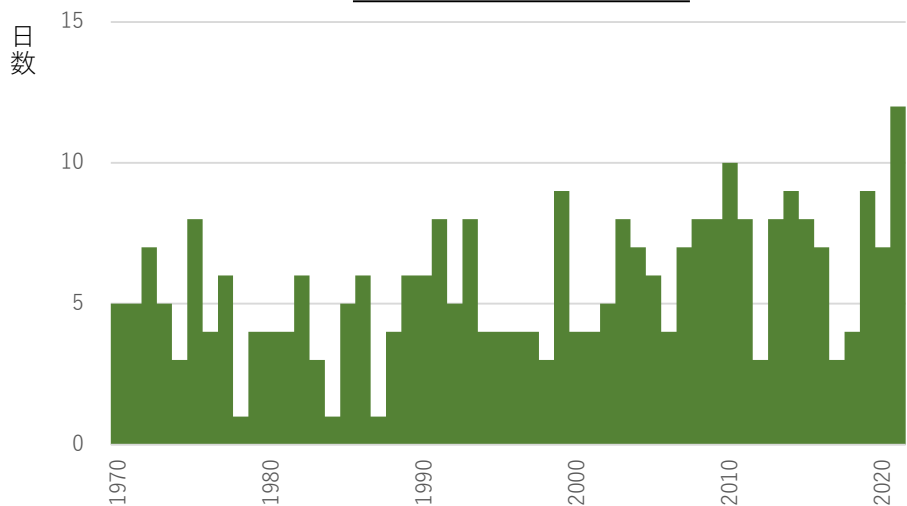
今後の展開（例）

- 緑化によるCO₂吸収源対策や再生可能エネルギー利用の促進が必要
- クールアイランドを形成する、まとまった緑の創出が必要

2. 都立公園を取り巻く社会状況

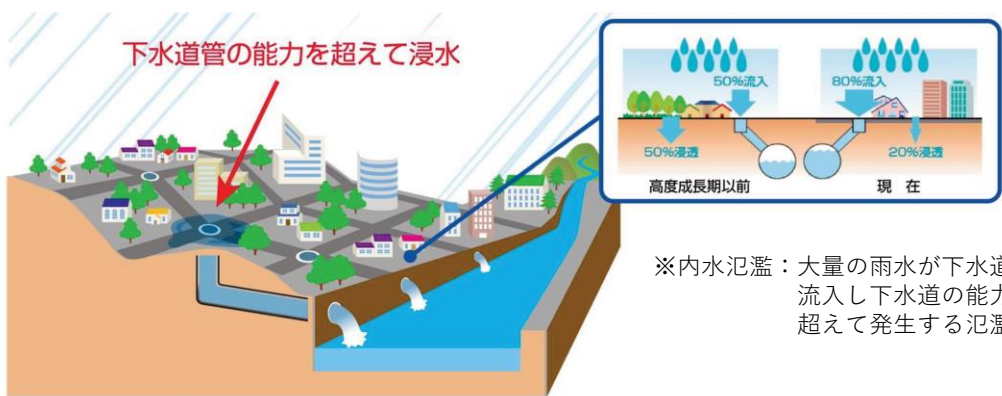
■ 風水害による影響

東京の豪雨発生日数



出典：大都市における日降水量50mm以上の長期変化傾向（気象庁 2021）

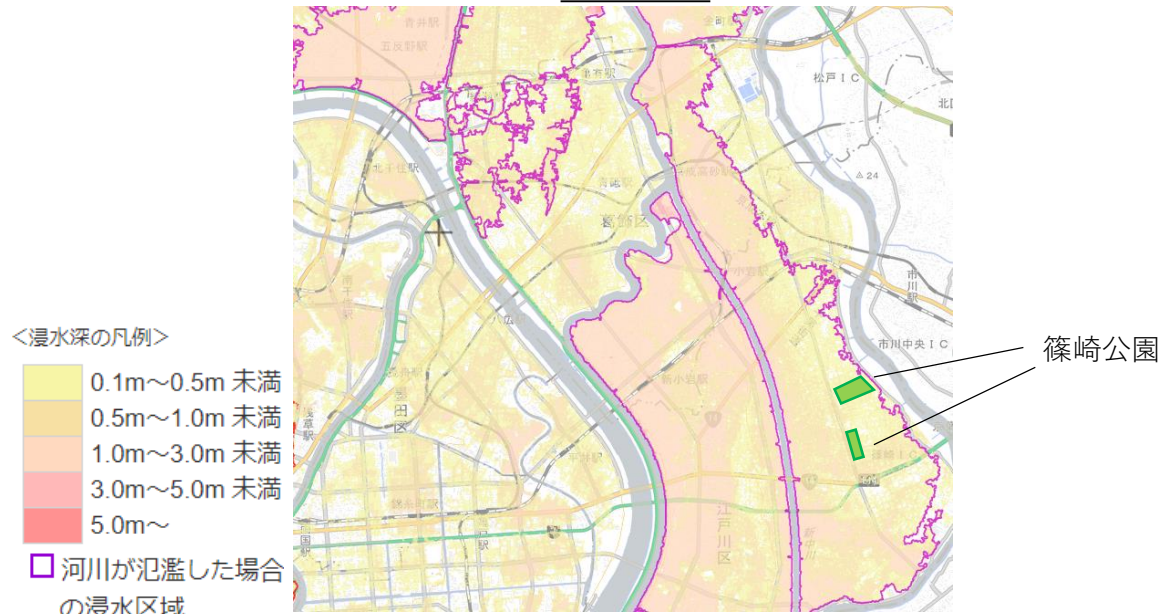
都市における内水氾濫※



※内水氾濫：大量の雨水が下水道に流入し下水道の能力を超えて発生する氾濫

出典：下水道浸水対策計画2022（東京都 2022）

浸水予想



想定最大規模降雨（1時間最大雨量 153mm、総雨量 690mm）を想定

出典：浸水予想区域図（東京都 2021）を基に作成

現状と課題

- 集中豪雨の頻発や台風の大型化により、浸水被害の甚大化が予測
- がけ崩れ等の土砂災害や倒木等の強風被害が頻発

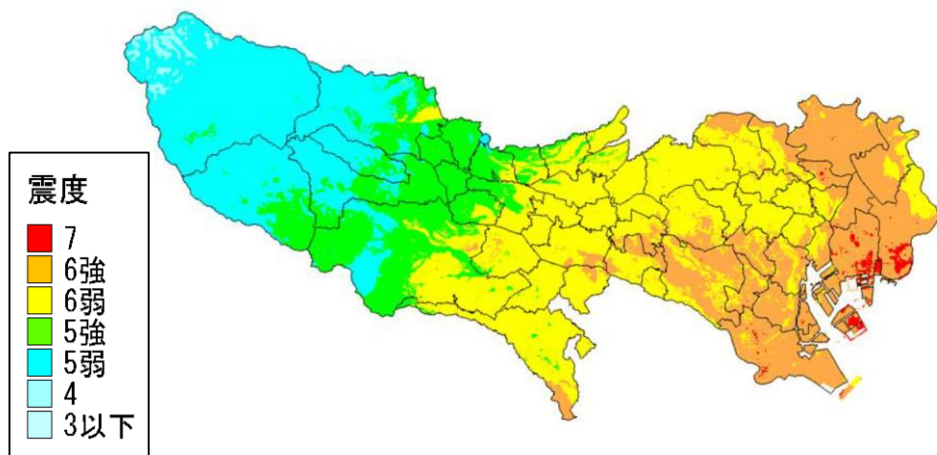
今後の展開（例）

- 雨水貯留浸透機能の向上や、浸水に対する防災機能の強化が必要
- 法面保護や樹木の健全育成など、風水害に対する安全性向上が必要

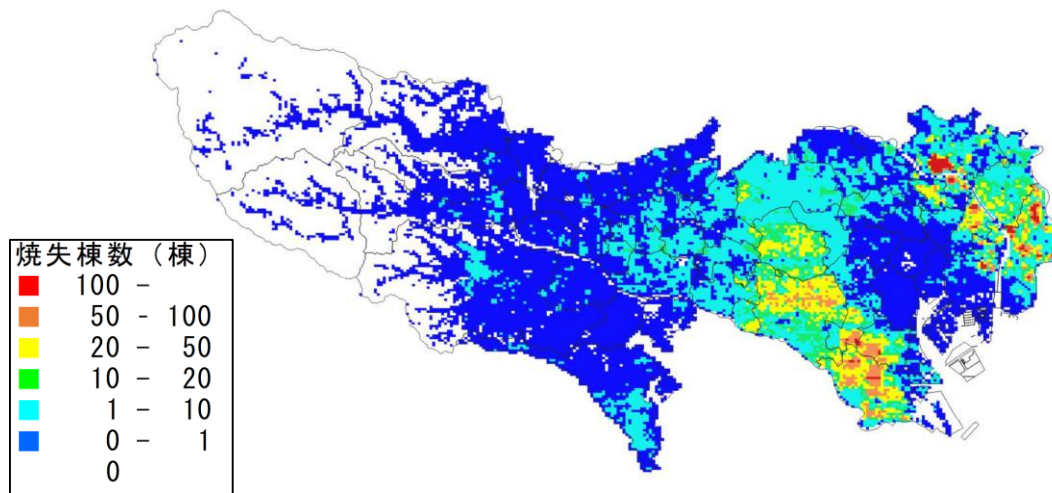
2. 都立公園を取り巻く社会状況

地震による影響

東京における被害想定（都心南部直下地震）



都心南部直下地震（M7.3）の震度分布

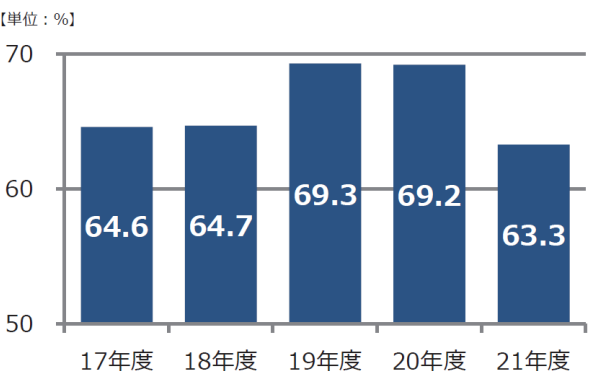


焼失棟数分布

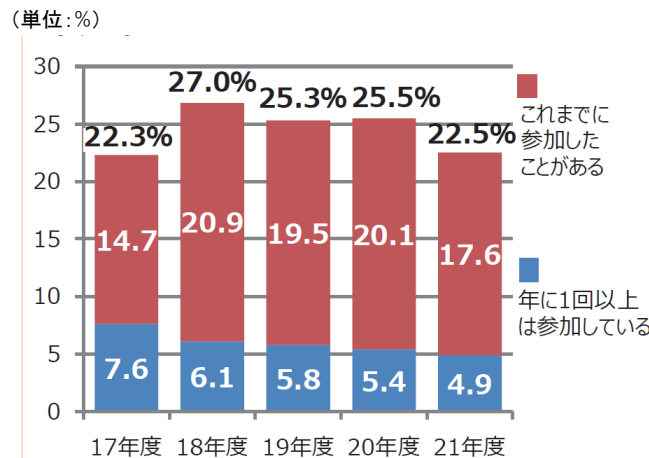
出典：首都直下地震等による東京の被害想定報告書（東京都 2022年）

避難所又は避難場所を知っている人の割合

地域の防災訓練に参加したことがある人の割合



出典：東京都防災プラン進捗レポート（東京都 2022年）



出典：東京都防災プラン進捗レポート（東京都 2022年）

現状と課題

- 東京で大規模地震が発生すると、甚大な被害の発生が想定
- 一人ひとりの備えや地域での取組等は横ばいか低下の傾向

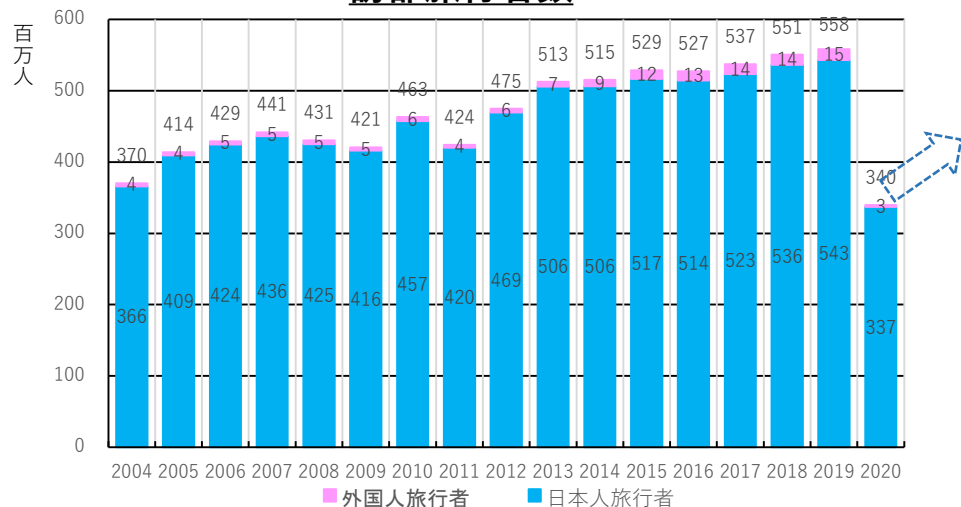
今後の展開（例）

- 避難場所や活動拠点の拡充と機能向上が必要
- 自助、共助の取組推進に向け、一層の普及啓発が必要

2. 都立公園を取り巻く社会状況

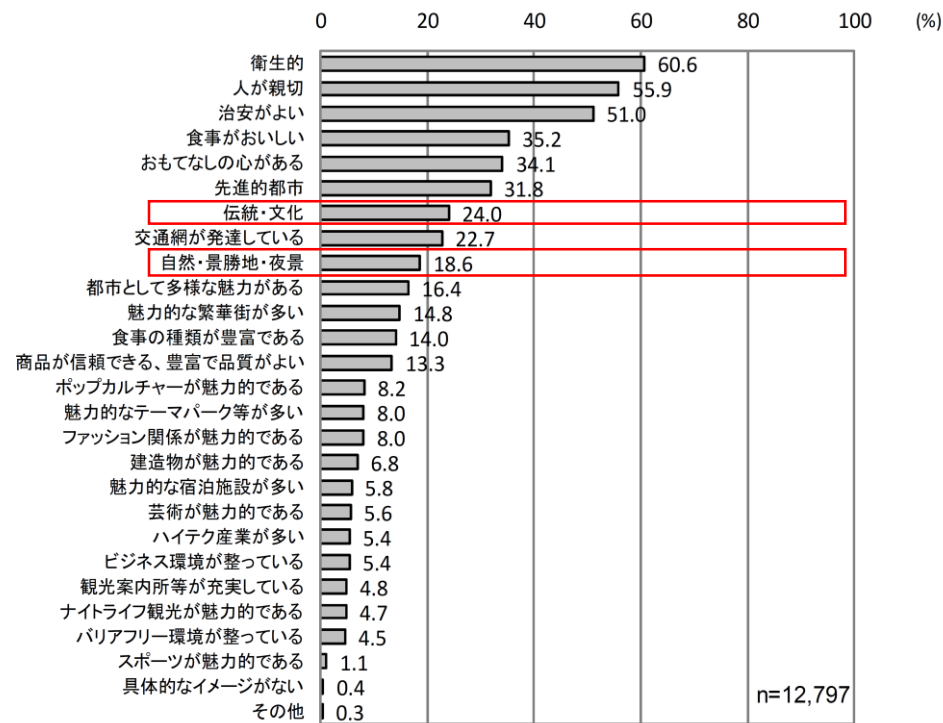
■ 歴史文化・観光

訪都旅行者数



出典：東京都観光客数等実態調査（東京都 2020年）を基に作成

訪都外国人旅行者が考える東京の魅力



出典：平成31年・令和元年 国・地域別外国人旅行者行動特性調査報告書（東京都 2020年）を基に作成

世界で最も魅力的な都市のランキング (Readers' Choice Awards 2021)

米国版ランキング
The Best Cities in the World
(Best Big Cities 部門) (米国を除く)

英国版ランキング
Top 20 CITIES in the World
(英国を除く)

- 1位 (6位) **東京 (日本)**
- 2位 - 大阪 (日本)
- 3位 (1位) 京都 (日本)
- 4位 (3位) シンガポール
- 5位 - イスタンブール (トルコ)
- 6位 - メリダ (メキシコ)
- 7位 - マラケシュ (モロッコ)
- 8位 (7位) ポルト (ポルトガル)
- 9位 - バンコク (タイ)
- 10位 - ソウル (韓国)

- 1位 (15位) **東京 (日本)**
- 2位 - 大阪 (日本)
- 3位 (4位) 京都 (日本)
- 4位 (9位) シンガポール
- 5位 (1位) サン・ミゲル・デ・アジェンデ (メキシコ)
- 6位 - イスタンブール (トルコ)
- 7位 (3位) メリダ (メキシコ)
- 8位 - マラケシュ (モロッコ)
- 9位 (18位) ポルト (ポルトガル)
- 10位 - アспен (アメリカ合衆国)

※ () 内は 2020 年の順位、- は昨年ランク外

出典：Condé Nast Traveler (コンデ・ナスト・トラベラー) 誌

出典：PRIME 観光都市・東京 東京都観光産業振興実行プラン (東京都 2022年)

現状と課題

- 国外における海外旅行意向は高く、東京に強い関心
- 自然や文化・暮らしの体験への志向の高まり

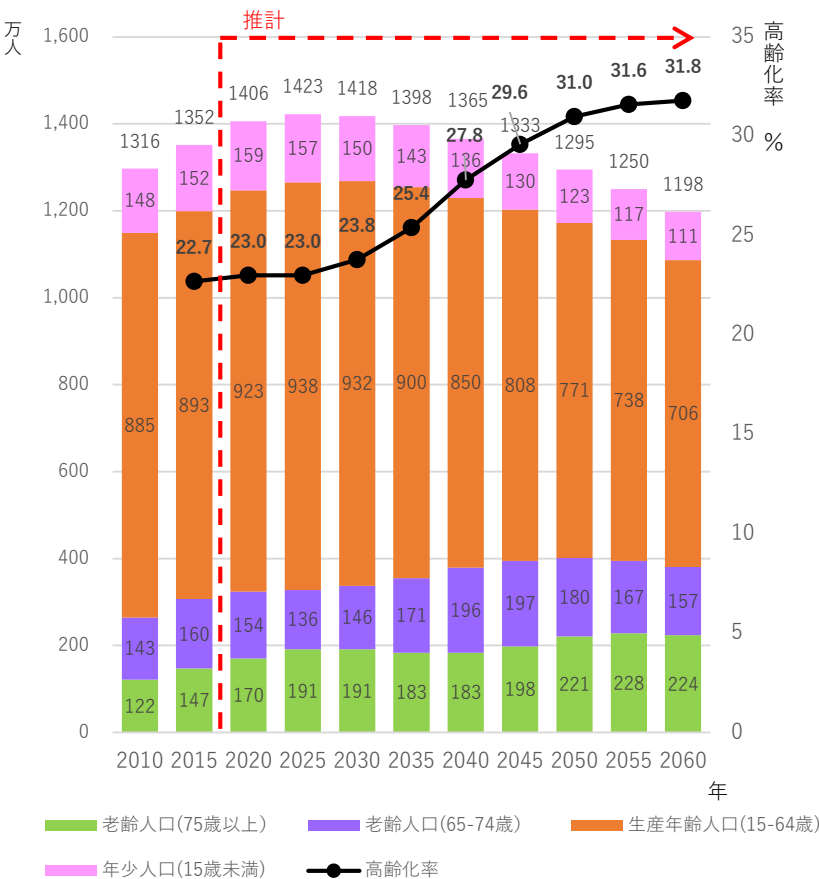
今後の展開 (例)

- あらゆる旅行者が快適に滞在できる受入環境の整備が必要
- 東京ならではの観光資源の磨き上げが必要

2. 都立公園を取り巻く社会状況

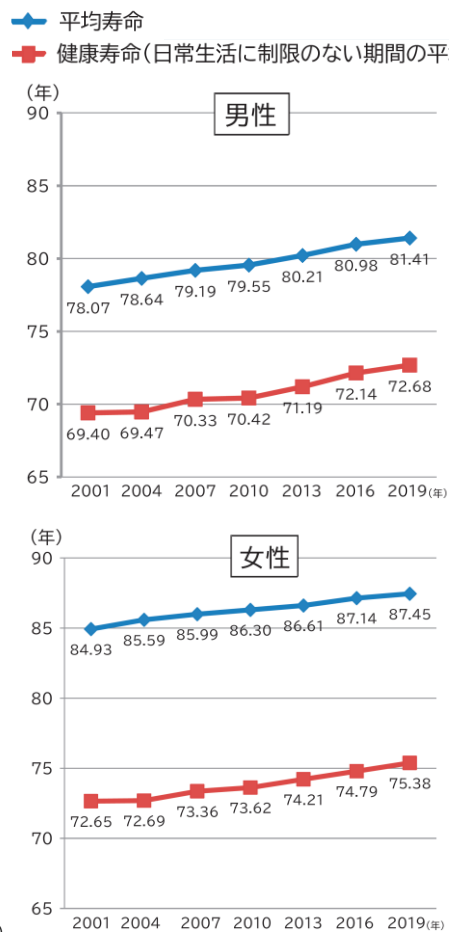
都民の人口構成

東京都の年齢階級別人口の推計



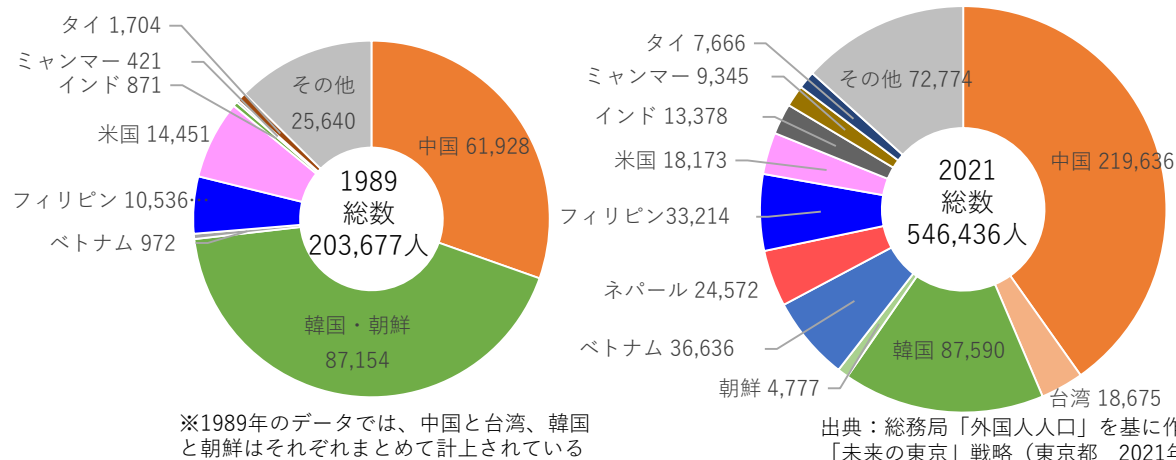
出典：「東京都昼間人口の予測」（令和2年3月）（東京都総務局）、「国勢調査」（総務省）、等より作成 「未来の東京」戦略附属資料（東京都 2021年）
備考：1. 2045年以降は、東京都政策企画局による推計
2. 四捨五入や、実績値には年齢不詳を含むことにより、内訳の合計が総数と一致しない場合がある。

平均寿命と健康寿命

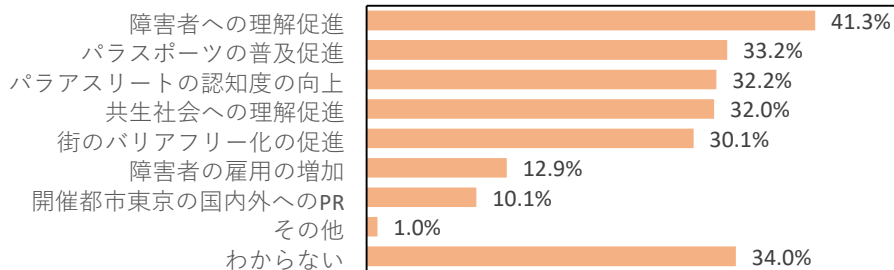


出典：令和4年版厚生労働白書（厚生労働省 2022年）

東京都の在住外国人人数と国籍構成の変化



東京2020パラリンピックによって得られた効果



出典：東京2020パラリンピック競技大会後の都民意識調査結果（東京都 2022年）を基に作成

現状と課題

- 少子高齢化が進み、外国人人口は増加し国籍も多様化
- 2020大会を契機に共生社会の実感が進展

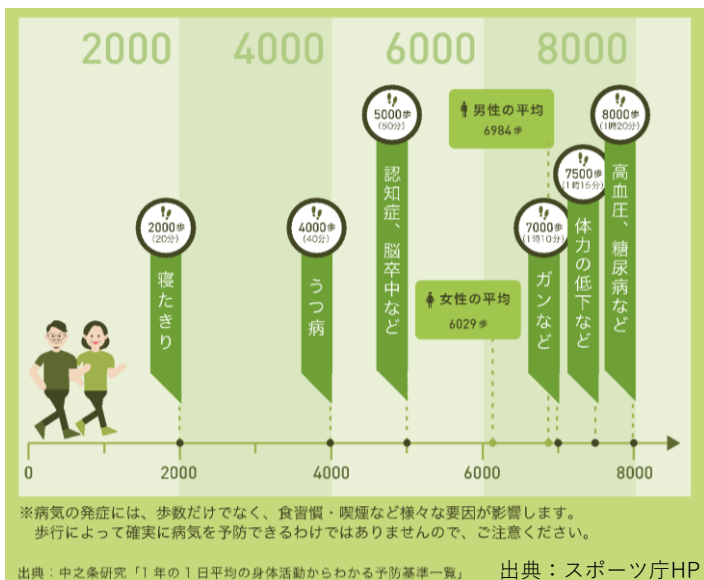
今後の展開（例）

- 高齢者が元気で心豊かに過ごせ、子供の笑顔を育む取組が必要
- UDに配慮した施設整備と心のバリアフリーの推進が必要

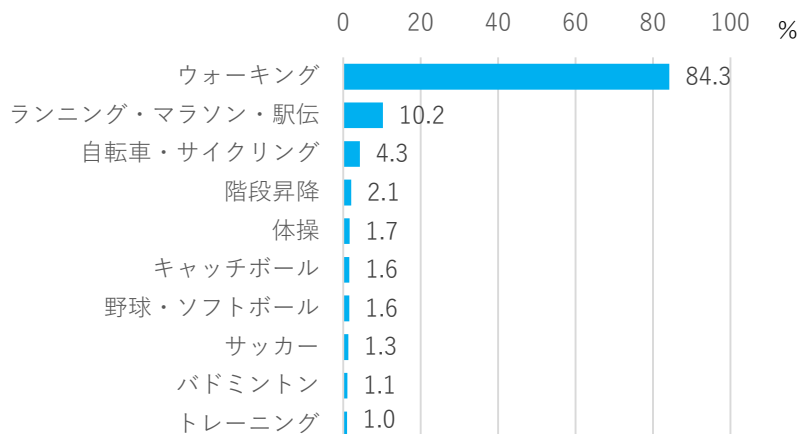
2. 都立公園を取り巻く社会状況

健康維持と運動の習慣

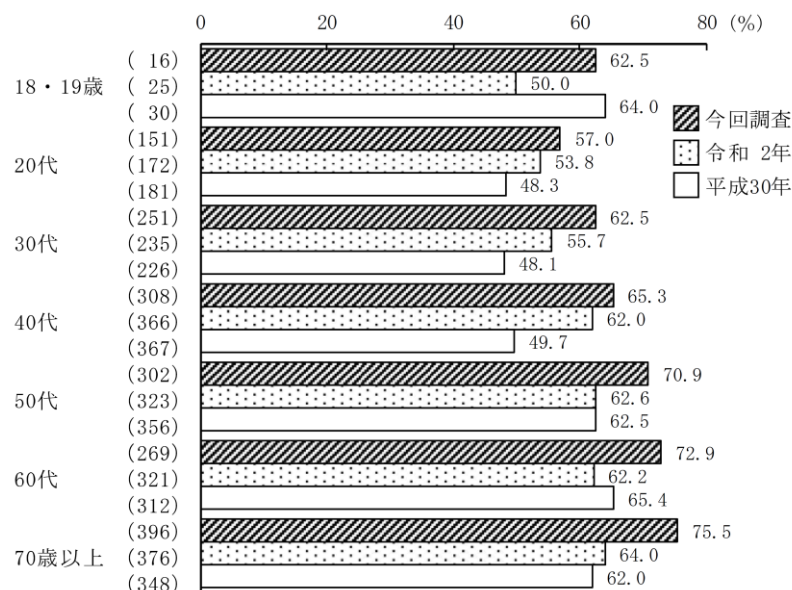
1日に歩く歩数と予防に効果がある病気



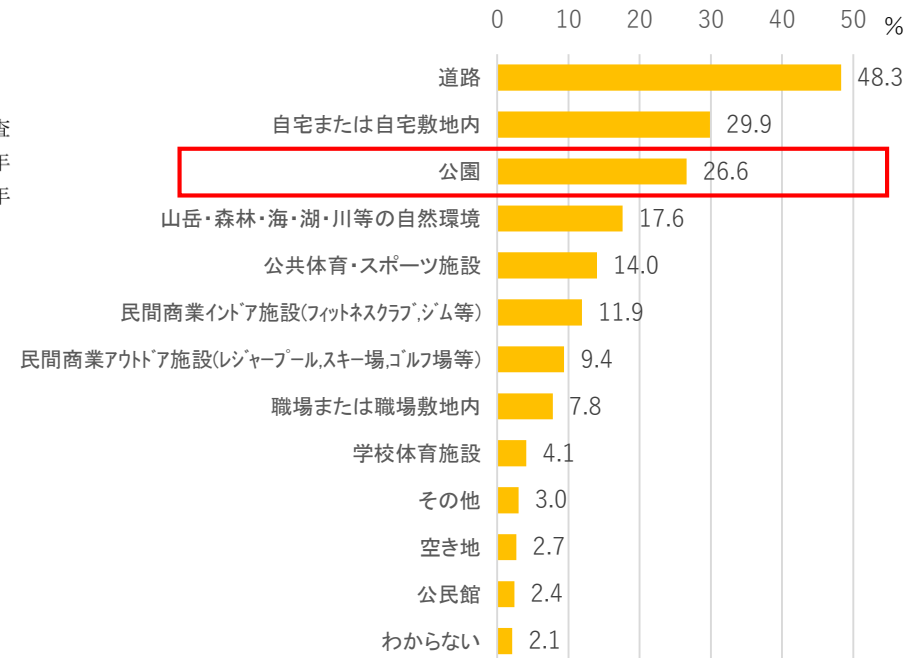
公園で行っている運動・スポーツ



運動・スポーツ実施率



運動・スポーツの実施場所



現状と課題

- スポーツに親しむ人は増加傾向
- ウォーキングやランニングなど気軽に取り組みやすい運動が中心

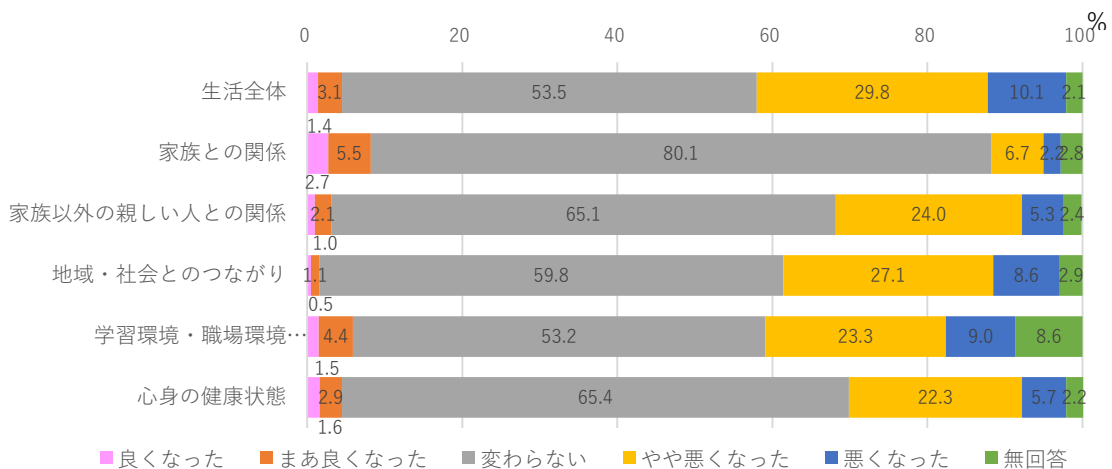
今後の展開（例）

- 誰もが気軽に体を動かすことができる環境の提供が必要
- 健康増進につながるイベントやプログラムの充実が必要

2. 都立公園を取り巻く社会状況

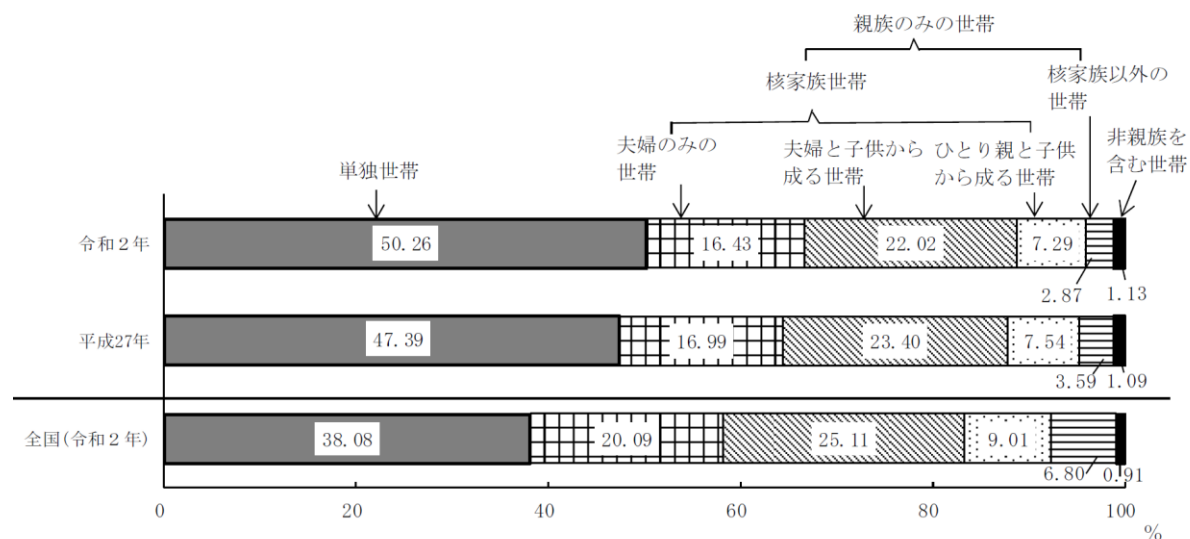
■ コミュニティの醸成・居場所づくり

コロナ禍における日常生活の変化



出典：人々のつながりに関する基礎調査（内閣官房 2022年）

一般世帯の家族類型別構成比



出典：令和2年度国勢調査人口等基本修景結果概要（東京都 2022年）

子供シンポジウム「ティーンズ・アクションTOKYO 2021」提案

<提案>

- 既に存在する空間（公園や神社、お寺、教会など）を放課後の居場所に活用できないか
- 公園や神社、お寺、教会を活用するには、「安心安全に過ごせる建物があること」、「Wi-Fi環境が整備されていること」、「お寺や神社、教会に対するイメージを変えること」が必要
- 東京都のサポートがあれば、中高生は今よりも良い「放課後の居場所」を見つけられるのではないかと



2021年11月に開催されたこどもシンポジウム

現状と課題

- 日常生活における地域や社会、人とのつながりが悪化
- 放課後の居場所等、心地よく過ごせる居場所が不足

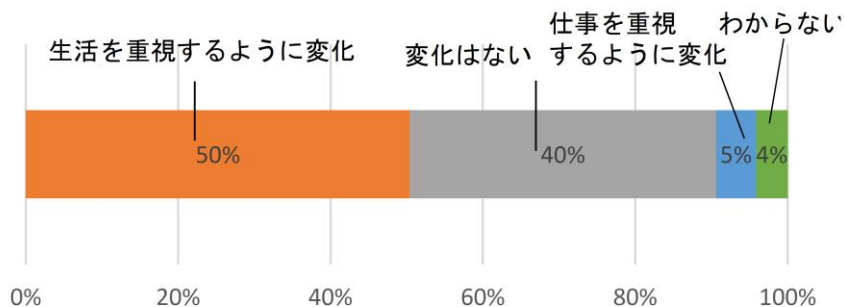
今後の展開（例）

- 地域・社会など、家族以外の人とのつながりを生み出すことが必要
- 誰もが気軽に立ち寄り、他者と交流できる場が必要

2. 都立公園を取り巻く社会状況

■ 「新しい日常」への対応

ワークライフバランスへの意識変化



出典：新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査（内閣府 2020年）

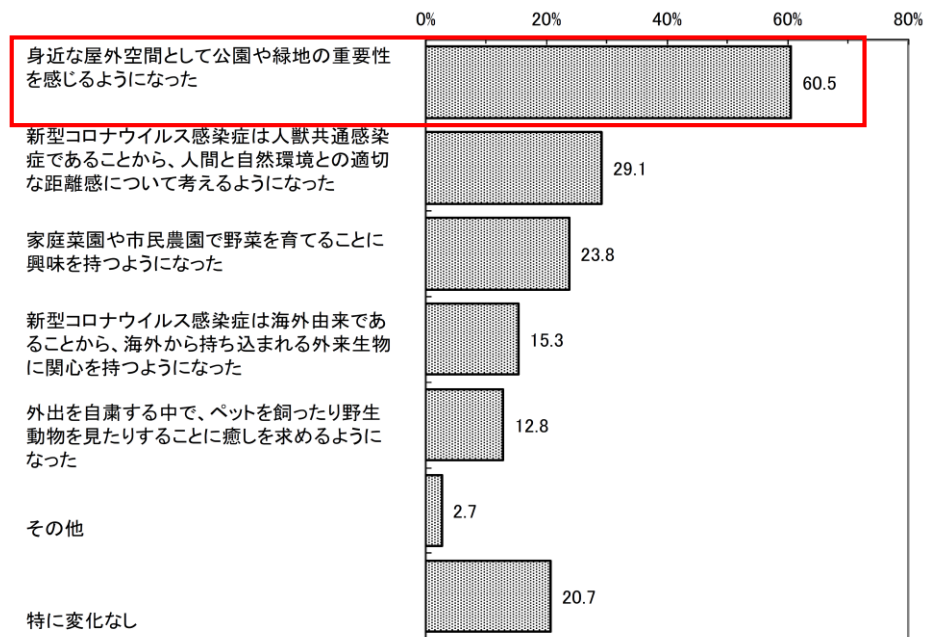
公園利用者の比較



3月の公園利用者の比較（狭山公園、武蔵国分寺公園、野川公園の平均）

出典：新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性（国土交通省 2020年）

コロナの感染拡大に伴う自然環境に関する意識の変化



出典：令和2年度インターネット都政モニターアンケート「生物多様性について」（東京都 2020年）を基に作成

現状と課題

- ワークライフバランスへの意識が生活重視に変化
- 身近な屋外空間へのニーズが高まり、多様化

今後の展開（例）

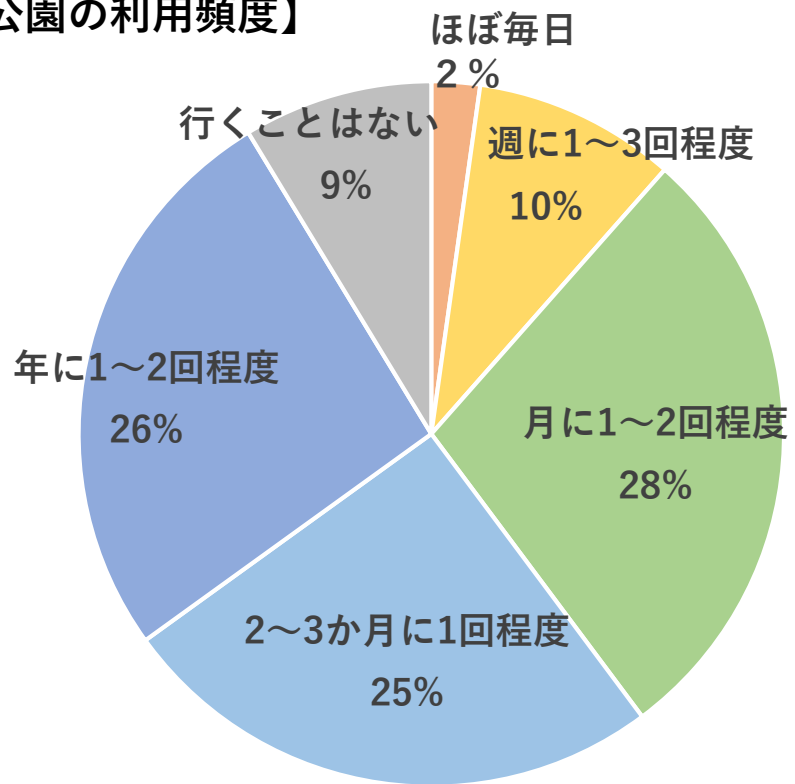
- 居心地の良い、身近な屋外空間の充実が必要
- 多様なニーズに柔軟に対応できる空間づくりが必要

3. 都政モニターアンケート

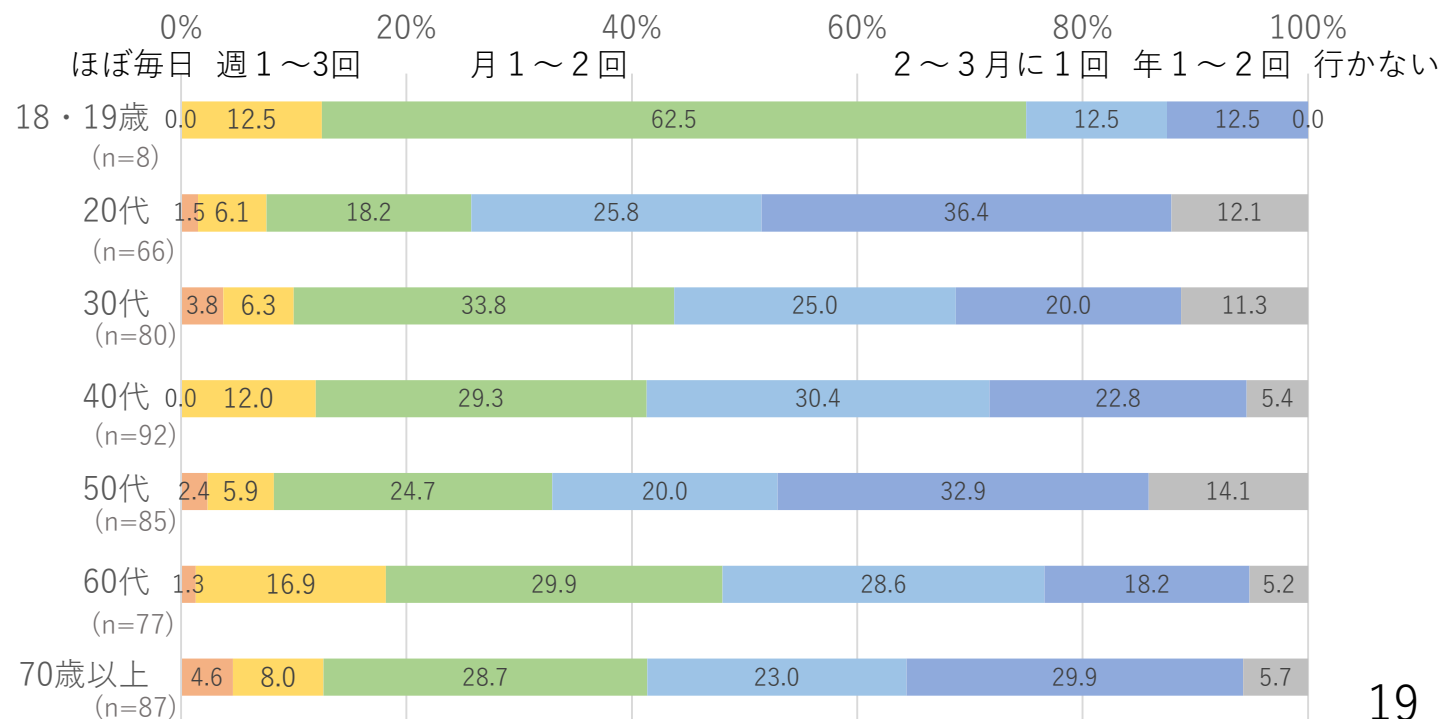
令和4年度第1回インターネット都政モニターアンケート

- テーマ：都立公園及び霊園について
- 設問数：全22問…うち、都立公園について（11問） ・ 都立公園の利用目的 ・ 都立公園に期待する役割 等
- 期 間：令和4年6月22日～6月28日
- 方 法：インターネットを通じ、モニターがアンケート専用ホームページから回答を入力
- 回答数：495人 / 都政モニター500人

【都立公園の利用頻度】



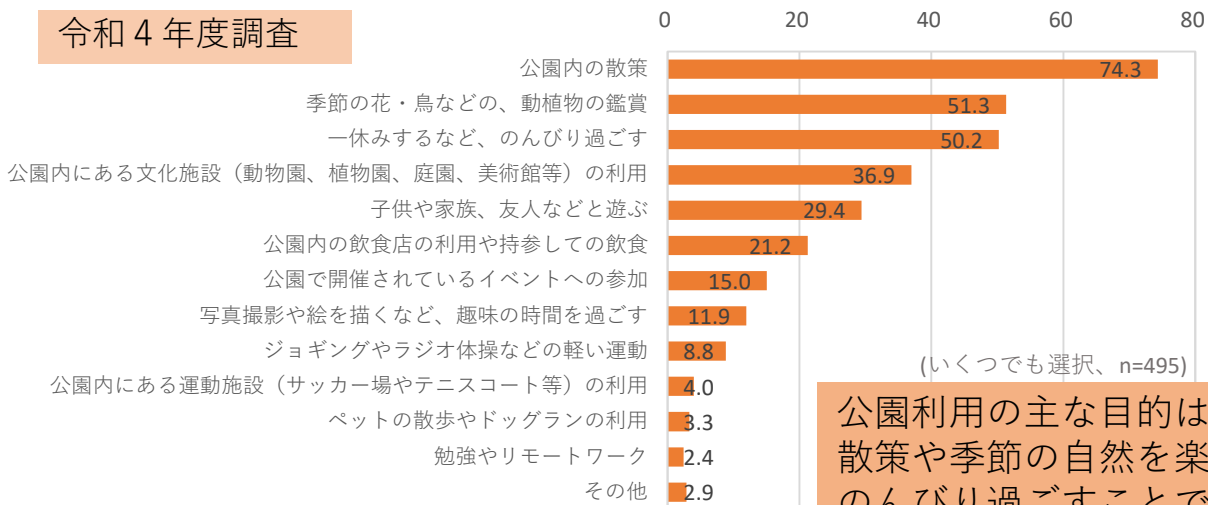
年代別状況



3. 都政モニターアンケート

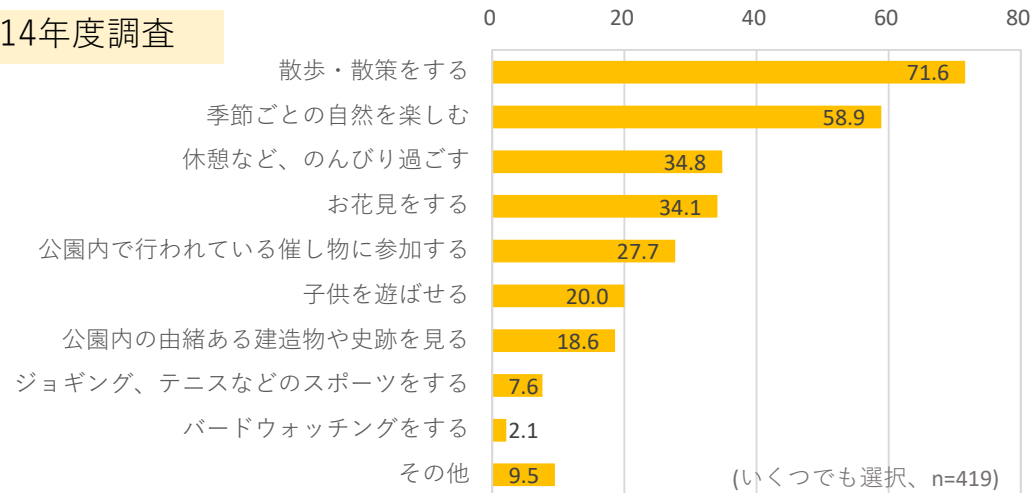
【都立公園を利用する目的】

令和4年度調査



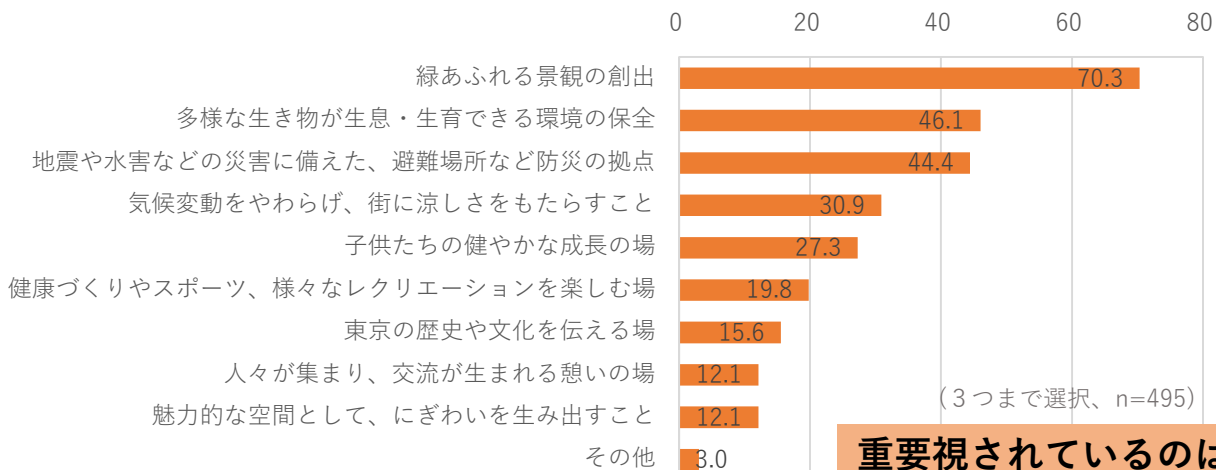
公園利用の主な目的は
散策や季節の自然を楽しみ、
のんびり過ごすことで、
20年前と同じ

平成14年度調査



【都立公園に期待する役割】

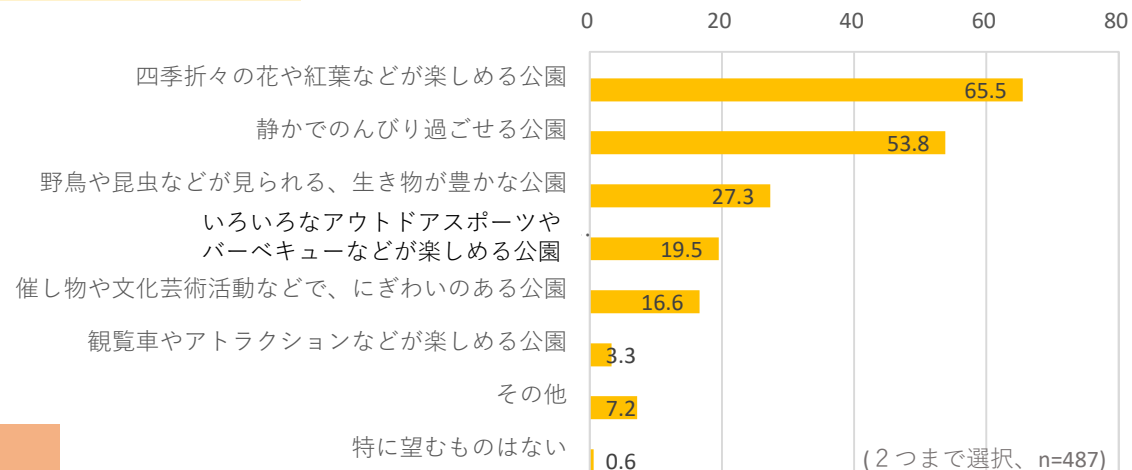
令和4年度調査



重要視されているのは、
「緑」「生き物」「防災」

平成14年度調査

※「望ましい公園像」として質問



4. これまでの都立公園の取組と成果

パークマネジメントマスタープランとは

パークマネジメントとは、東京が目指す公園づくりの基本理念と目標を達成するため、誰からも分かりやすい目標設定、多角的な視点による事業展開、結果の評価による継続的な改善を行っていくことである。

東京都では、平成16年8月にパークマネジメントマスタープランを策定し、公園づくりの基本理念と目標、その実現のためのプロジェクトを提示し、その後、平成27年3月に改訂している。

パークマネジメントマスタープランの基本理念と実現のためのプロジェクト

都市の魅力を高める公園

国際的な観光拠点となる公園づくりプロジェクト
庭園・植物園・動物園での「おもてなし」プロジェクト
公園の多機能利用と民間の活力導入促進プロジェクト

高度防災都市を支える公園

防災公園機能強化プロジェクト
都立公園の安全・快適プロジェクト

生命を育む環境を次世代に継承する公園

水と緑の骨格軸形成プロジェクト
都立公園の生物多様性向上プロジェクト
自然とのふれあいプロジェクト

豊かな生活の核となる公園

都立公園の魅力向上プロジェクト
パートナーシップ推進プロジェクト

4. これまでの都立公園の取組と成果

基本理念1. 都市の魅力をもつ公園 取組事例

1. 国際的な観光拠点となる公園づくりプロジェクト

【歴史と文化を伝える公園の再整備】

- ・上野恩賜公園では、日本の顔となる「文化の森」の創造を目指し、広場や園路、噴水等の再生整備を実施
- ・日比谷公園では、歴史の中で積層した魅力に磨きをかけながら、多様なニーズに応える新しい公園像を目指し、再生整備計画を策定



竹の台広場（上野公園）



日比谷公園再生整備計画

【誰もが利用しやすい公園づくり】

- ・約7割のトイレを洋式化し、段差解消等バリアフリー化を推進
- ・障がいの有無に関わらず遊べる、ユニバーサルデザインの視点による遊具広場等の整備を推進



段差解消の状況



だれもが遊べる遊具広場（砧公園）

【東京2020大会開催に向けた公園の整備】

- ・東京2020大会の会場等である夢の島公園等5公園において、競技施設の整備やサインの多言語化等を実施



アーチェリー場（夢の島公園）

今後の展開（例）

- 歴史や文化を踏まえた整備やバリアフリー化など公園の特性や快適性を向上させる取組を引続き推進することが必要
- 成功した東京2020大会のレガシーを次世代に継承、発展させることが必要

4. これまでの都立公園の取組と成果

基本理念1. 都市の魅力を高める公園 取組事例

2. 庭園・植物園・動物園での「おもてなし」プロジェクト

【文化財庭園の保全・再生】

- ・ 浜離宮恩賜庭園の鷹のお茶屋や小石川後樂園の唐門等を復元



鷹のお茶屋 (浜離宮恩賜庭園)



唐門 (小石川後樂園)

【「おもてなし」プログラムの提供】

- ・ 「大茶会」、「船上雅楽」等の庭園の魅力を高めるイベントを開催
- ・ ドローン撮影した動画等を活用し魅力を発信

今後の展開 (例)

- 文化財の保全や再生の取組を継続するとともに、国内外からの来園者に魅力を発信し、東京の文化を次世代に継承することが必要

3. 公園の多機能利用と民間の活力導入促進プロジェクト

【民間のノウハウ等を活かした施設づくり】

- ・ 明治公園と代々木公園においてPark-PFI制度による公園整備に着手
- ・ 浮間公園等4公園では、官民連携によるカフェ等を設置



公園に設置されたカフェ (浮間公園)



Park-PFI制度による整備イメージ (代々木公園)

【指定管理者制度の運用改善等によるサービス向上】

- ・ 公募選定において、効果的な管理運営の推進のため、公園のグループ編成を適宜見直し、コロナ禍による変化への対応などを要件に追加

今後の展開 (例)

- 官民連携の実施等により、柔軟な公園の活用や管理運営を進めることが必要

4. これまでの都立公園の取組と成果

基本理念2. 高度防災都市を支える公園 取組事例

4. 防災公園機能強化プロジェクト

【防災公園の整備】

- ・非常用発電設備やソーラー照明灯、デジタルサイネージ等の整備を進め、防災拠点として機能強化（27公園整備完了、22公園整備中）
- ・篠崎公園において、スーパー堤防整備や土地区画整理事業と連携し、高台まちづくりを推進



非常用発電機



デジタルサイネージ



ソーラー照明灯

今後の展開（例）

- 首都直下地震等による甚大な被害が想定されており、防災機能の強化に継続して取り組むことが必要
- 豪雨など激甚化する気象災害への備えにも対応することが必要

5. 都立公園の安全・快適プロジェクト

【安全・安心な公園とするための取組】

- ・施設改修や適切な維持管理により、利用者満足度は向上

安全・安心に関する利用者満足度の推移



※各公園での利用者満足度調査（5段階）の平均値

【公園施設の適切な点検と維持・更新】

- ・平成26年度に都立公園施設長寿命化計画を策定し、トイレや遊具、橋梁等の施設改修を計画的に実施

今後の展開（例）

- 安全で快適に利用できるよう、公園施設等の良好な維持管理を継続することが必要

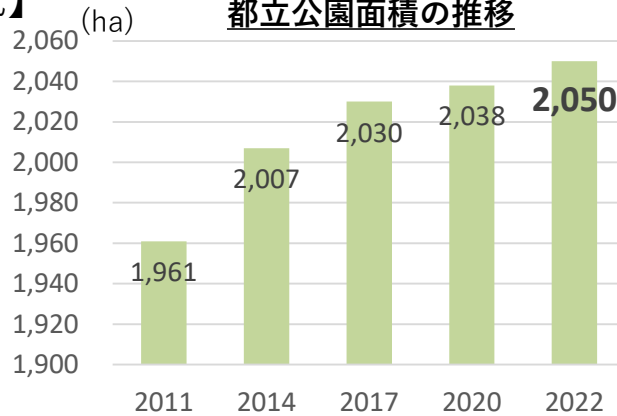
4. これまでの都立公園の取組と成果

基本理念3. 生命を育む環境を次世代に継承する公園 取組事例

6. 水と緑の骨格軸形成プロジェクト

【骨格軸の拠点となる公園の形成】

- 令和2年度に83箇所目となる高井戸公園を新規開園するなど、現在約2,050haを開園



今後の展開 (例)

- 東京の緑の骨格となる都立公園を更に拡張することが必要

7. 都立公園の生物多様性向上プロジェクト

【生物生息・生育空間の整備と管理】

- 多様な生物が生息する都市公園づくり事業を21公園で展開し、環境整備やモニタリング、管理等の取組を実施

今後の展開 (例)

- 生物多様性の確保に向けて、都立公園における多様な自然環境を創出することや良好な管理を行うことが必要

8. 自然とのふれあいプロジェクト

【自然体験活動、環境教育の拠点としての公園等の活用】

- ボランティア等との協働により、自然観察会やワークショップ等の自然体験型プログラムを開催

【自然とのふれあいの場としての丘陵地の公園緑地づくり】

- ボランティア等との協働による雑木林の更新作業や下草刈等を実施



自然体験プログラム (狭山公園)



ボランティアによる下草刈り (東大和公園)

今後の展開 (例)

- 里山の雑木林など手入れを要する自然環境について、都民協働等による適切な維持管理を行うとともに、環境学習の場として活用することが必要
- 近年拡大するナラ枯れへの対応に取り組むことが必要

4. これまでの都立公園の取組と成果

基本理念4. 豊かな生活の核となる公園 取組事例

9. 都立公園の魅力向上プロジェクト

【都立公園の魅力発掘・創出】

- ・大規模花壇づくりやライトアップ等により魅力的な景観を創出

【子供の育成、多世代交流の場となる公園】

- ・遊具等の整備や子供向けイベントを開催、地元自治体や図書館と連携した子育て支援や多世代交流等、幅広い取組を実施



のびのび親子館（武蔵野の森公園）

【スポーツによる健康づくりの場となる公園】

- ・東京2020大会を契機とし、気軽にスポーツに親しむイベントを開催



アーチェリー体験イベント（夢の島公園）

今後の展開（例）

- 子供の心身の育成や幅広い世代の健康づくりの場となるとともに、来園者の心に残る新しい公園の魅力発信に取り組むことが必要

10. パートナーシップ推進プロジェクト

【公園情報の受発信機能の強化】

- ・ホームページやSNS、動画サイト、スマートフォン向けアプリ等、様々な媒体による情報発信を実施

【都民、NPO、企業等との連携による公園づくりの推進】

- ・ボランティア団体や地域住民等の多様な主体と連携し、地域での子供の見守りや花壇づくり等、様々な取組を実施



地域住民による子供たちの見守り活動（砦公園）



地域の企業、市民団体、公園管理者が連携した花壇づくり（浮間公園）

今後の展開（例）

- デジタル技術を活用した魅力ある効果的な情報発信を行うとともに、地域住民等と連携した管理運営に取り組むことが必要

5. 検討の視点（例）

生物多様性保全

動植物の生息・生育環境が減少し、絶滅のリスクが高まっている。丘陵地や台地、低地、水辺等多様な自然基盤に立地する都立公園のポテンシャルを良好な維持管理により、一層発揮させる。

地震対策

防災対策が進み、被害想定は減少したものの、未だ甚大な被害が想定される。オープンスペースの確保や防災施設の拡充により、避難場所や救出救助の活動拠点としての機能を一層高める。

地球温暖化・ヒートアイランド現象対策

気温の上昇傾向に収束が見えない状況である。樹木のCO2吸収機能の効果的な発現や再生可能エネルギーの活用等により、カーボンニュートラル社会の実現に貢献する。

風水害対策

気候変動により気象災害が激甚化している。公園の雨水浸透等の減災機能を発揮させるとともに、浸水時への対応を推進する。

「未来の東京」を支える都立公園

東京の緑が減少する中、都立公園が果たす役割は大きくなっている。グリーンインフラとしての多様な機能を発揮させる。

「新しい日常」への対応

コロナと共存する生活の定着に向けて、公園が都民に安心して快適に利用できる身近な空間を提供するとともに、キャッシュレス等利用ニーズの変化に対応する。

インクルーシブな公園づくり

多様な人が共に支えあう社会を目指し、バリアフリー化とともに、障がいの有無に関わらず遊び楽しめる公園づくりを推進する。

多様な主体との連携 デジタル技術の活用 SDGs

都民のウェルビーイング向上

ライフステージや個々のニーズに合わせて利用され、交流できる居場所や気軽な運動などの場となり、心身の健康づくりに寄与する。

歴史と文化の継承、発信

江戸から続く文化財庭園や開園150年を迎える上野恩賜公園など、東京の歴史や文化を伝える公園を守り、再生し、東京の魅力を発信する。

人中心の歩きやすいまちづくり

人と環境にやさしい、歩いて暮らせるまちの実現を目指し、にぎわいや憩いの空間として快適に利用できるよう、官民連携を図りながら多面的活用を推進する。

子供を育てる場

未来を担う子供を大切にするため、子供が健やかに育ち、安心して子育てができる公園づくりを推進する。

東京都公園審議会の検討スケジュールについて

○第1回
(令和4年11月25日)

○第2回
(令和5年1月頃)

○第3回
(令和5年2月頃)

○第4回
(令和5年3月頃)

(令和5年4月頃)

○第5回
(令和5年6月頃)

